

兵庫保険医新聞

第1577号

発行所 兵庫県保険医協会

2009年1月5日

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目2-31
神戸フコク生命海通ビル5F ☎078-393-1801
(1部350円送料共・年間購読料12,000円)
振替01190-1-2133

(会員の購読料は会費に含まれています)

9条の会・兵庫医師の会「アメリカばんざい」上映会&山室信一氏講演会

一人ひとりが9条守る力に

「戦後の60年間は、平和的生存権が世界的に共有されてきた歴史」「国が軍隊を持つことが常識だとされているなら、9条という『非常識』を対峙していこう。九条の会・兵庫医師の会が12月14日に尼崎市で開催した講演会で、京都大学教授の山室信一氏は平和憲法の役割をこう分析した。この日は、若者が貧困ゆえに軍に志願せざるを得ないアメリカの惨状を描いたドキュメンタリー映画「アメリカばんざい」Crazy as usual」の上映も行われた。市民ら66人が参加し、平和への思いを新たにされた。

9条の思想水脈

「未来につながる9条の水脈」をテーマに講演した山室信一氏は、憲法9条は憲法の前文に謳われた平和的生存権を保障するために生まれたものだと言明。「平和とは、『専制と隷従、圧迫と偏狭』が除去され、『恐怖と欠乏』から自由になった状態。平和的生存権は、1922年の水平社宣言を起草しガンジーの思想



9条の思想的成り立ちを熱く語る山室信一京都大学教授

に影響を受けた西光万吉などを、憲法9条の誕生につながる「思想の水脈」として例にあげた。田中の無戦主義とは、平和や自然環境、人権を守るために言葉と論理で戦うこと、西光が「平和や差別撤廃という美名のために暴力を用いても、結局は新しい暴力・差別を生む」と訴えたことなどを紹介した。

平和的生存権の戦後60年の到達

山室氏は、政府見解と異なる内容の論文を発表した田母神俊雄元航空幕僚長などを事例に、司法・立法・行政が相互に監視し干渉しあう三権分立や、文民が軍隊を統制するシビリアンコントロールの考えが、現在の政府には欠けていると指摘した。また、田母神氏が「武器を持って戦えるようにすべき」と国会で主張したことに対して、「憲法は権力を

縛るもの。憲法を順守できないのなら公務員になるべきではない」と厳しく批判した。参加者らには「一人ひとりの小さな力が9条を守る大きな力につながる」と訴えた。

泉孝英京大名誉教授があいさつ

講演前には9条の会・医療者の会の呼びかけ人で京都大学名誉教授の泉孝英先生が「憲法9条とともに、25条も大切。社会保障を充実させるのは国の責務」とあいさつし、全体まとめて池内春樹理事長が「在日米軍に毎年4400億円を払っている。これを社会保障に使う国にしていこう」と参加者らに呼びかけた。

主催した9条の会・兵庫県医師の会には、現在県内で3805の医師・歯科医師が賛同しており、司会を務めた八木秀満協会副理事長がさらなる賛同を訴えた。

1・17 阪神・淡路大震災メモリアル行事のご案内

◆早朝追悼集会

17日(土) 5時30分～ 中央区諏訪山公園

◆大震災14年・ながたメモリアルウォーク

17日(土) 9時30分～ 新長田勤労市民センター集合

◆市民追悼式

17日(土) 10時～12時 神戸市勤労会館多目的室

◆メモリアル集会

17日(土) 13時～17時 新長田勤労市民センター

講演「大震災14年長田の復興を考える」ほか

詳細は、☎078-393-1803 高山・小川まで

後期高齢者制度撤回を！



ポケットティッシュ追加注文受付中

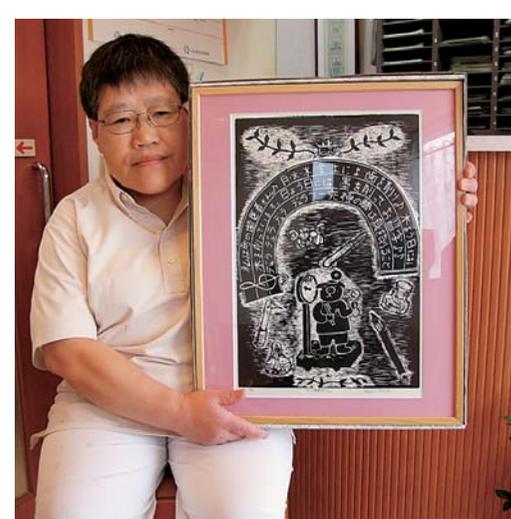
ご注文は、☎078-393-1807まで

私の宝もの16

長田区・歯科
大畑 登代先生

木版画 「プーちゃんの希い」

プーちゃんは毎月2回、第2、第4木曜日に新長田にあるカルチャーセンター木版画教室へ通っています。3年前に開設されたカルチャーセンターの「楽しい木版画体験教室」へ参加したのであります。そこで、講師の先生からスケッチの仕方、①全体を



宝物「プーちゃんの希い」と大畑先生

なんとなく捉えるのはでなく、一番気持ちを引き出した所から書き始めること、②しっかりと対象物を捉えて、ゆっくり筆を進めることを、教えていただきました。プーちゃんは「目からウロコ」、すっかり先生の虜になりました。教室は、生徒がプーちゃん一人(二匹)きりのプラ機「ペーパーミント」「ネコの歌姫」「桜とネコ」「大きなあれ」「干支の「亥」「子」「鯉のぼり」…次々と作品が生まれました。一度大きな作品を作ってみようと、「プーちゃんの一週間」を描くことになりました。何度も何度も書きを繰り返して、「プーちゃんの希い」が生まれました。今年の干支の「丑」、来年の夏の「プーちゃんの昼寝」も刷り上がりました。また皆様にお披露目できたら光栄です。



宝塚社保協「後期医療」廃止行動

「老人いじめ」制度なくせ

宝塚社保協は後期医療制度の年金からの保険料天引き日である12月15日に、同制度の廃止を求め署名活動を実施。同会副会長の中井通治理事長が道行く人にマイクで訴えた。

燭心

一生懸命勉強 素晴らしい大学に入 学する、そうす れば一流企業、 大企業などに就 職できたり、公務員にもな れる。そうすればよほどの ことがない限り、定年まで 仕事が続けられ、給料も上 がり続ける。遠い昔のこと のようだが、団塊の世代な ら実際に体験してきたはず だ。努力をして勤勉に勤め るなら、なんとか一家を養 い生活できた時代。企業が 社会保障の一部に責任を持 っていた時代。これらのど こがいけなかったのか▼当 時竹中平蔵いわく「社会的 に解決しなければならぬ 貧困はない」「儲けた人は 努力して成功した人、そん な人から税金を取っては申 し訳ない」「社会保障とは 貧しい者のおねだり、わが ままだ」加えて某氏「お金 で買えないものはない」「こ の価値観の落差は何なのだ ろうか。お金だけがものを いう新自由主義、改革路線 つまり大企業の論理が、国 民の生活する社会をぶち壊 してしまった▼どうして私 たちはこのような社会を選 択したのだろうか。かつてバブル経済の頃、国民の多く が自分は中流の上と思わさ れていたときがある。その 頃から基本的人権、社会保 障の感覚が薄れたのではな いか。ただ財界による圧力 と仕掛け、恣意的な報道、 そして劇場型な政治パフォー マンス▼横暴な大企業に よる首切りで、いまやネッ トカフェにも泊まらない難 民が大量に生まれている。 皮肉なことに社会保障にツ ケが回って行くことは必死 だ。このときこそ真実をよ く見つけ、政治を大きく変 えるときではないか。(無)